

# 1. 評価結果概要表

平成 20年 3月 26日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2073400497		
法人名	社会福祉法人 長野市社会福祉協議会		
事業所名	鬼無里なかよしハウス		
所在地	長野県長野市鬼無里日影6711番地1 (電話) 026-256-1160		
評価機関名	株式会社福祉経営サービス研究所 サービス評価推進室		
所在地	長野県松本市深志3丁目7番17号		
訪問調査日	平成20年3月26日	評価確定日	平成20年5月7日

【情報提供票より】( 20年 2月 28日 事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	7 人
職員数	10 人	常勤7人	非常勤3人 常勤換算8人

### (2) 建物概要

建物構造	平屋 造り	
	1 階建ての	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	0 円	その他の経費(月額)	日額450 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料料費	朝食	180 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 円
	または1日当たり		780 円

### (4) 利用者の概要 ( 2月 28日 現在)

利用者人数	6 名	男性 2 名	女性 4 名
要介護1	2名	要介護2	1名
要介護3	2名	要介護4	1名
要介護5		要支援2	
年齢	平均 88 歳	最低 83 歳	最高 94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	長野市鬼無里診療所
---------	-----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

H17年に長野市と合併し、長野市北部の山間地に位置し自然あふれる環境の中、四季おりおりの気配を感じながらゆっくりとした時間を過ごせる社会福祉協議会が運営するグループホームである。開所当時は地元の認知症に対する理解の相違から反対もあり苦労され、地域に受け入れられるようになったとも聞く。現在では地域から一住民として自然に受け入れられており、地域の支援、地域の祭りへの参加、小中学生の訪問や共同作業などの時間も多くあり地域に馴染んだホームである。ホームに隣接する畑からは利用者が培った野菜が収穫され、住民から差し入れられる食材などと一緒に食卓に並ぶ。地元の食材を使い、利用者とともに作った馴染みの料理が並べられる。利用者は、1日のほとんどは居間で過ごされ、自室に戻るの寝るときだけであり、ホームの運営理念が職員と利用者の関係からおのずと感ぜられるホームである。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 1. 一人になれる空間や皆から離れて座れるベンチなどの工夫については、廊下にソファや玄関脇にはベンチを置き、ちょっとしたやすらぎの空間になっている。2. ケアプランの見直しについても状態変化がなくても3ヶ月に1回の見直しもされるようになっていくがモニタリングとしての評価は毎月1回行なわれることが望ましい。入浴においても利用者の希望に沿って毎日入れる体制も作られ、時間帯の工夫もなされている。3. 勉強会についてもネットワークの勉強会に大いに参加している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)  自己評価は職員全員で行われ、職員会で意見交換し作成されており、業務の見直しにもつながっている。今後の課題が明確になされたようである。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 鬼無里なかよしハウス運営推進会議規定から認知症になって住み慣れた地域や家で暮らし続ける人をサポートするため、利用者や第三者が常に運営状況を把握し、地域に開かれた運営体制の維持、サービスの質の向上、地域と密着に連携し利用者の生活支援の実現を目的としている。運営委員のメンバーが代わっても認知症への理解のためのDVD利用などにより、理解を得る取り組み等を行い地域との付き合い、地域貢献に取り組んでいる様子が窺える。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 年2回は行事後家族会を行っている。面会が頻回に行われその都度希望、意見を聞きケアへの反映につながっている。市社会福祉協議会広報誌に合併後事業収益赤字、事業移行でほしい廃止との報告がされている。グループホームは馴染みの関係が大切であり、当ホームでは居室代もゼロであり住民の負担を考えたものというが家族会の中で話し合いを行い経営の存続のためにも色々な面から意見を出し合い経営の見直しが求められる。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 利用者も地元の人であり交流も多い。家族会、運営推進会議において、ホームの考え方、理念方針を説明し理解してもらえるようにしている。地域からの訪問者が多いことや雪かきの応援隊が出動してもらえるなどの様子から地域との連携が自然になされている様子が窺える。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な環境と、安心と尊厳・安らぎと自信のある生活を送る支援を理念として一人ひとりの一日を大事に生活を送っている。地域密着型サービスとして住み慣れた地域で安心した暮らし、場所、その人らしく生活を送ることを明確にした理念を再構築している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は介護を行う上での基本として捉え、ホーム内に掲げている。理念について職員会で話し合い地域密着型の理念の意識付けを行い、見直しも行っている。毎日のミーティングや職員会議で理念を共有し、実践できるようにしている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	盆踊り・地域の運動会・避難訓練・中学校の文化祭行事に参加し交流を深めている。地域の大正琴の会の発表会での交流や紐草履の講師を招き、講習会を開催している。また、今でも草履作りが余暇の合間に行われている様子も窺えた。地域の一員として近くの人がお茶のみに来てくれたり気軽に野菜を持ってくるなど地域との交流がなされている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員の勉強会の際に、自己評価・外部評価の意義や目的を職員全員が理解できるように努め、全員で自己評価に取り組んでいる。その中で日々の介護、運営の見直しや気づきにつながり理念の見直しなど具体的な業務改善計画につながっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でグループホームの理解を得るため現状報告にとどまらず運営、ケア内容の検討、説明を行い地域の理解を得る場となっている。また、必要により出席委員などの検討を行い積極的に推進会議の役割を遂行できる努力をしている。外部評価は2回目であり今回の評価を報告し、サービス向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者も異動があり、なかなか関係作りに難しい点もあるが運営や制度の相談、指導を受けている。今年度は灯油代の申請のアドバイスを貰った。市町村担当の地域包括支援センターを直接の窓口とし今後成年後見などの相談指導の機会を作っていく予定である。あんしん相談員も利用しておりサービス向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪は多く、来訪時や家族の状況に応じて電話連絡で利用者の状況報告を行っている。暮らしぶりなどについても写真など状況報告し、金銭管理は家族の来訪時に出納簿をその都度確認の上確認印を頂いている。	○	ホーム便りの発行により、施設内での利用者の暮らしぶりや職員の異動などについて、家族等への報告が定期的になされることが望ましい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人内に苦情解決体制を設け第三者委員による相談窓口及びホーム内に要望箱の設置をするなど、随時意見を取り入れる体制を整えて、苦情解決体制の掲示をしている。家族の来所時には、いつでも声かけできる雰囲気を作っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	グループホームであるということから職員の異動は極力抑えるよう配慮している。職員が山間地であり集まりにくい点に苦慮している。新職員においては半年くらい利用者や馴染みの関係が出来るまで補佐がつき、利用者に不安を与えない配慮がされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では定期的に研修が行われている。学習できる機会が多くあり、研修報告書を作成し職員全体の講師として皆に伝え共有している。今後の課題として管理者はスタッフの習熟度に応じた研修を計画的に行えるよう取り組みを行っていく予定である。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長野圏域のグループホームをネットワーク化する取り組みに参加し、交流する機会をもつようになった。認知症のケース検討会などにも積極的に参加しケアに活かしている。また、今後地域グループホームとの相互訪問の機会を利用し事業所外の経験も質の向上につなげていく取り組みも計画している。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者と家族が安心して納得した上で入居が出来るように入居前に施設見学をしたり、職員は担当ケアマネジャーなどと自宅訪問し、馴染みの関係作りに心がけ、工夫している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「ことわざ」や「昔からのしきたり」や「縫い物の仕方」など教えてもらい一緒に行っている。おやつのおやきを丸めるなど本人が出来ることは一緒に行っている。日中の生活場所は居間であり、話をしたり歌を歌ったり、昼寝も居間のこたつを囲んでする等、夜以外は一緒に生活をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式によるケアマネジメントを取り入れて本人の意向を汲み取るようにしている。利用者の一人は作業所に来ているつもりでいる。そんな利用者には環境も本人の意思に合わせて対応している。失禁が多くなった利用者には、その人の立場にたち考え対処方法を提案し解決するなど本人本位に検討している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は作成担当者が中心となり作っている。計画作成時には本人の意向を可能な限り汲み取り、家族の意向も反映させられるように作成している。スタッフ全体が関わりケアプランを作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月に1回は定期的なモニタリングを行い、6ヶ月ごとにプランの変更を行っている。状況が変わればミーティングにて主治医の意見を取り入れ家族と話し合いを行い、ケアプランを変更している。プランの進行状況の確認、情報交換のためにも毎月のモニタリングを行うことが望ましい。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族に代わり受診などの送迎に付き添っている。また、急な体調不良の往診にも対応している。重度化した場合や終末期の回避にも対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の大半が地域の住民であり地域診療所の医師がかかりつけ医である。立地条件から主治医は利用時に地域診療所医師が主治医となる。随時適切な医療が受けられる支援がなされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	開設より3名の利用者を見送っている。「重度化した場合における対応に係る指針」が作られており家族へ説明し、機会があるごとに本人の意向、家族と相談している。状況に応じて改めて関係者と話し合いを行い方針を検討している。	○	重度化に対する指針が作られており本人、家族の意志を尊重し看取りの体制に取り組んでいるが、本人、家族、かかりつけ医等事業所側の考えがずれたまま重度化を迎えないように早いうちから話し合い、重度化に伴う段階的な合意のため、意思確認書の作成などや事業所が対応し得る最大のケア指針などを明確にし話し合いなどを行うことが望ましい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	運営理念にも謳われており、職員は利用者一人ひとりの誇りを尊重し、ケアに当たっている。利用者も職員も地元の人であり馴染みの生活状況が自然に感じられる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行事があるとき以外はその日の天候や利用者の希望で散歩に出掛けたり、カルタ取り、野菜の収穫などにも出掛ける。また横になっていたり、食事も延食があったり、支障ない範囲でその人のペースを大切に生活している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自分たちの作った野菜や地元の農家が届けてくれた野菜を使い、何をやるか相談しながらその人の力量を活かし、食事作りをしている。地元ならではの焼きは利用者から教わりながら一緒に作りそれぞれの役割に生きがいを感じている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	出来るだけ本人の生活習慣に合った入浴が行えるように工夫しており、毎日入る人、夕方は入る人など利用者の希望により入浴が楽しめている。入浴時間は午後3時頃から夜8時頃までの余裕を持たせている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や力量を活かし食事作りや野菜作り等、本人の経験や知恵を発揮する場面を作り、それを自信につなげている。散歩や行事参加での外出などにより気分転換への支援も行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	施設周辺の散歩は、一人ひとりのその日の体調や希望により毎日行っている。時期になると農園に出掛けたり、近所のグランドヘゲートボールに出掛けるなど戸外に出ることは多い。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関や勝手口以外は施錠できる場所はない。夜間以外は施錠していない。個々の行動パターンを理解し見守りの中、さりげなく声かけしながら散歩に出掛けられるような体制作りがなされており、天気の良い日は毎日出掛ける利用者もいる。	○	離設のリスク対応や地域の見守りとして、警察・消防などへの協力、働きかけを行い必要時には運営推進会議への参加も求め地域での見守りネットワークの推進が求められる。

鬼無里なかよしハウス

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を行っている。そのうち1回は夜間想定し消防署・消防団・地区自主防災会・行政の協力得て実施している。地域住民による非難誘導、地域全体への通報訓練も行っている。また、利用者の部屋の入口には、体の状態により誰でもわかるように誘導方法が絵で画かれた、首にかけるカードが用意されている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の献立は定期的に支所の栄養士に見てもらっている。茶碗などの工夫や嗜好により、水分摂取の確保に努めている。今後は、高齢となった利用者毎の身体状況に合わせた食事の提供のために、内容、栄養バランス、カロリーなど必要に応じ栄養士に相談していく必要性を感じ、検討している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中の生活の中心となる居間には大きなコタツを置き昼寝などの場になっており、利用者の落ち着く場所である。居間の壁には行事の写真を貼ったり、作成した塗り絵などが飾ってあり、楽しんで生活出来る工夫をしている。廊下や玄関入口にベンチを置き一息つける空間も用意されている。居間の窓からは季節感あふれる景色が安心をかもし出している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の中には、ここが作業所と思って生活をしている人がいる。そんな人にはその人が落ち着く環境を作るため馴染みの持込は最小限にしている。利用者毎に落ち着いた状況を見ながら、馴染みの筆筒、布団、写真などを持ち込んでいる。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。